大志

農と自然の力を活かし、誰しもが輝けるまちに。

◀詳しくは大志のウェブサイトをご覧ください。

農福2.0

Agriculture-welfare Collaborations

Harnessing the power of agriculture and nature,
we build a town where everyone can shine.

農福2.0とは?

About Nofuku 2.0

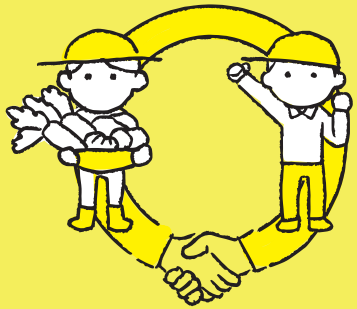
従来の農福連携が、障碍者手帳保有者など行政の支援の枠組みのなかで行われていることに対して、現在の支援制度の枠から外れている、発達障害・若年無業などの方々にたいしての支援も、大志の取り組みとして行いたいという思いから、農福連携2.0として事業を行う決意です。

具体的な取り組みとして、長年引きこもり生活を送っていた青年をスタッフとして迎え入れ、本人の状況に合わせて、少しずつ仕事の内容や作業時間、責任の度合いを広げてきました。現在では、正社員として農場長をサポートする立場で農場に不可欠な存在として活躍しています。また、最近新たに迎え入れた引きこもりのスタッフのメンター的な役割もこなし、「農と自然の力を活かし、誰しもが輝けるまちに。」という大志の理念に重なる循環の場ができています。

さらに、農福連携2.0としての活動の認知を広げるため、埼玉の福祉施設と連携し、触法者の方に対して農業をベースに就労を支援できる場所があることをPRする動画を制作しました。

大志では、制度の有無にかかわらず、就労が困難な方が個性を発揮し、社会とつながれる多様性のある農福連携を通じて自立できる社会の確立を目指します。

【参考】：中長期アウトカム（2030年の目標）



山梨県内の就労困難者の方々が個性を発揮し、社会とつながれる多様性のある農福連携を通じて自立できる社会を確立する。その実現にむけたアクションプランは以下の二つです。

1. 山梨県内の就労困難者に対して、多様な働き方の機会創出と就労支援を継続的に取り組み、農福連携による地域共生社会を早期に実現する。
2. 就労適性と就労条件のマッチ度が高い就労環境が提供できるように就労支援のマッチングサービスを構築し、福祉団体と受入団体（農業や関連事業者）の就労支援の業務効率の改善をはかる。

農福連携とは

農福連携とは、障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。農福連携に取り組むことで、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながる可能性もあります。

大志について

「農と自然の力を活かし、誰しもが輝けるまちに。」をコンセプトに、農業を志す人、障がいなど生活の生きづらさを抱える人、未来ある若者たちが、地域の農と自然を活かし「誰しもが挑戦の機会を与えられ、誰しもが輝ける」新しい地域づくりを担う団体です。

“Boys, be ambitious! like this old man”。大志の名の由来は、ウィリアム・スミス・クラーク博士の名言「子供等よ、此老人の如く大想にあれ」から着想を得て名付けました。

主な事業として、①共同集荷場事業、②水の山子ども情報局事業、③ボランティア農園事業、④薪活用事業、を行っています。
近年、全国的に取り組みが広がりつつある「農福連携」が事業の中心です。